

留学体験報告書

報告者	2022 年度生：1 名、2023 年度生：1 名
留学先大学名(国名)	ハインリッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学（ドイツ）
留学形態	短期留学プログラム (科目名：体験型教養科目 -Short Program in Heinrich Heine University-)
留学期間	2024 年 8 月～2024 年 9 月

留学中の活動内容・成果について：

一か月のプログラム期間中、平日の午前中はドイツ語の授業に参加し、ドイツ語を聞き取る力や話す力を伸ばすことができた。クラスの先生は語彙や文法といった形式的な部分より、会話によるコミュニケーションを重視していたため、より実践的なドイツ語を身に付けることができた。授業を通じ、他の学生からの刺激を受けて、ドイツ語をためらわずに話してみることの重要性を学んだ。また、色々な国の留学生とのかかわりの中で、自分の意見を伝えることの大切さや、異文化間でのコミュニケーションの難しさ、楽しさを実感できた。他の留学生とはドイツ語だけでなく、英語でもコミュニケーションをとったことで、英語運用能力についてもある程度の自信を得ることができ、もっと英語も学びたいという向上心が芽生えた。

平日の午後からはプログラムの一環として、デュッセルドルフ市内の様々な名所を訪れ、デュッセルドルフについてより詳しく知る機会となった。そこで説明をしてくださる市民の方のドイツ語を聞くことで授業以外の場面で日常会話としてのドイツ語に触れることができた。

このプログラムのもう一つのテーマである自身の研究の活動として、「ドイツの観光地でのオーバーツーリズム発生状況」や「日本とドイツの学生の金銭感覚の違いについて」といったそれぞれのテーマに沿って、ケルン大聖堂やベルリン、ドイツの大学での聞き取り調査を行った。調査に協力してくださる方ばかりではなく苦戦したが、はっきり言葉にして伝えるということを身をもって経験できたことは新鮮だった。調査の終盤では、見知らぬ誰かに話しかける抵抗が少なくなったと感じる。それによって留学中に電車の遅延が発生し今の状況がわからないときなどに、ためらわずに誰かに聞くことができるようになり、自身で問題を解決する力を向上させることができたと思う。

週末には、ベルギーやフランスなどの名所を訪れ、名物を食べるなど、ヨーロッパの文化に触れることができた。多様な人との出会いや経験から、とても充実した一か月であったと感じる。